

第16回 令和7年5月8日（木）

「本日は全校で校外学習もしくは遠足のため、朝の学校はひっそりとしています。」

「グローバルな視点をもったリーダーの育成が本校のミッションなので、本日は世界のお話」

アメリカのトランプ大統領が就任時に「地球温暖化はフェイク。化石燃料をどんどん燃やせ！」と演説したことは記憶に新しいと思います。

地球が温暖化していることは事実だし、日本の夏も年々早まっています。例年大型連休のころは結構暑く「ここ10年で平均最高気温」などのフレーズが目立ちましたが、今年はそうでもないような気がします。でも来週から「かなりの高温」となるようなので、体が慣れていない時期ですから熱中症に厳重警戒してください。

さて私はトランプ大統領、実は地球温暖化を信じているのではないかと思っています。なぜなら彼は「グリーンランドをアメリカの領土にする」とか「カナダをアメリカの51番目の州にする」などの主張を繰り返し、北極近辺にものすごく注目しているからです。

北極の氷が溶けていることはみなさんご存じのとおり。これにより北極近くの領土が生活居住可能な地域になることが予想されており、アラスカやグリーンランドなど人口密度が低い地域が見直されています。

またこの場所には未開発の鉱物資源が相当量埋蔵されているとも言われています。付近の海洋資源と合わせ、今後100年を左右する資源量かもしれません。

なにより大きいのは今まで氷に閉ざされて船が航行できなかった北極海が海洋交通に利用できるようになること。これに大きな利益を得るのがロシアなのです。

ロシアという国は氷に閉じこめられて、冬季に凍らない港（不凍港）を探すことが国的一大テーマでした。そのためにクリミア戦争や日露戦争を行ってきました。

北極海が航行できるようになるとロシアは念願の海洋国家への道が開けます。そうすれば貿易により豊かな国になり、アメリカの霸権を脅かす力を獲得できるでしょう。

アメリカはそれを予測し、カナダやグリーンランドにこれだけ注目しているのだと思います。トランプ大統領はそれをストレートに表現しているのではないかでしょうか。

北極の氷が溶けると、閉じ込められていたウィルスが目覚めるとも言われています。これから北極圏がどうなっていくのか、各国が注視するホットスポットとなっています。